

## 3年 こまを楽しむ 光村図書出版

### 本時のねらい

1. 「問い」に対する「答え」を、中の段落で見つけ、段落の中心となる言葉や文を確かめて、マイ黒板などを使って内容を整理する。
2. 整理した「答え」の段落の説明が、同じ順序で書かれていることに気づき、その理由について考えることができる。

### デジタル教科書（+教材）活用の意図

デジタル教科書にマーキングすることで、問いの文章と答えの文章の色分けをすることができる。また、マーキングした本文に「はじめ」「中」などのスタンプを加えると、段落の役割などを表現することができる。さらには、筆順アニメーションや漢字フラッシュカードを活用して、漢字の定着を図ったり、総ルビ表示や朗読音声を活用したりして、本文を通読する活動を行う。個別の能力に応じた活用方法を示すことで、学習者の教材文に向かう動機づけが高まる。教科書への書き込みに加えて、読むこと教材にある本文抜き出し機能（マイ黒板）は、書くことが苦手な児童に対して一定の効果が期待できる。ノートやワークシートへ書き出す活動に時間のかかる児童は、書いている途中で、教科書のどの文を書いていたのかを忘れてしまうことが少なくない。このような問題のある児童にとって、本文をなぞるだけで文章を抜き出すことができるため、思考を途切れさせることなく、課題を達成することができる。



### 国語科におけるスタンダードのデジタル教科書（+教材）活用のポイントは、ここだ！

1. 教科書本文へのマーキングやマイ黒板によって考えの根拠を見つける（個別活動の保証）  
読むことの課題を達成するための活動で、筆者の考えに対する自分の考えを作る場合に、筆者の考えとその根拠が書かれている文章を見つける（マーキングもしくはマイ黒板への抜き出し）活動を行う。教師の発問に対して、挙手して発言する活動と異なり、一定の時間をかけて個別に取り組ませることが必要となる。また、ここでの活動は答えを決定づけるものではなく、あくまでも思考の途中であることを意識させ、後で修正や変更ができる活動であることを確認するとよい。
2. 筆者の叙述に対する自分の考えを教科書本文やマイ黒板上に記入し交流する（対話的な活動）  
書き込んだり抜き出したりした画面に、自分の考えを書き込み（入力する）、その画面を見せながら少人数のグループ（2, 3名）で考えの交流を行う。その際には、根拠になった教科書本文を確認したり、お互いの考えで参考になるものは、自分の画面に加えたりしながら対話を行うとよい。
3. 交流によって得られた考えや情報をもとに、教科書画面やマイ黒板を修正する（やり直しの保証）  
少人数のグループの対話から、教師主導の全体での交流活動に移す際には、優れた書き込みやマイ黒板を示しながら行うが、積極的に考えの修正や加筆を促すとよい。日常的に友達から学ぶことの重要性を意識できるようになれば、主体的な学習方法が次第に身についてくる。全体の交流活動の中で発表を聞く際にも、自分の考えと比較しながら聞くことを意識させたい。

### ●学習活動（学習形態、学習活動内容）

学習活動 (学習形態・学習活動内容)	デジタル教科書+教材活用部分	留意点
2つの問いの文に赤と青のマーカで線を引き、段落を確認し、はじめ、中、終わりの構成を見つける。	既習事項を振り返り、問いの文章を見つけてマーキングする。スクロール表示にして、教材文全体を俯瞰しながら、構成を確認する。(図1)	間違ってもいいので、自分で見つけたところにマーキングする。
新出漢字をフラッシュカードで確認する。定着していない場合は、家庭学習で行う。	筆順アニメーション、漢字フラッシュカードを用いて、漢字の読みや意味などを確認する。 ・ペアになって、漢字フラッシュカードで問題を作って（漢字を選んで）、端末を見せながら操作をし、相手に答えてもらう。	各自のスピードでフラッシュカードを動かして確認する。
中心文やキーワードを、マイ黒板を使って本文から抜き出して、本文を構造的にとらえる。	マイ黒板を使って中の答えを整理して、自分の遊んでみたいコマを選び、選んだ理由を付箋機能で書き込む。 ①挿絵をすべてマイ黒板に抜き出して並べる。(前時) ②コマの名前と、楽しみ方を挿絵の下に抜き出す。(前時) ③コマの作りと回し方の文を抜き出す。(前時) ④カードを色分けしたり、線を引いたりして、それぞれの説明の中心となる文を見つける。	ワークを使わずに、マイ黒板に自由に整理させてもよい。
抜き出したマイ黒板上のカードを色分けしたり配置を変えたり矢印や枠をつけたりする。	各自で整理したマイ黒板（コマの実践写真）を、友達に説明するために、わかりやすくなるように線で区分けをしたり、カードの色分けをしたりする。	挿絵を最初に抜き出し、その下（横）に説明している文を抜き出す。 ※それぞれの説明が同じ順序で書かれていることを確認する。 ※ペアや3人グループで相談しながら書き込んでよい。
マイ黒板に自分の考えを書き込む（打ち込む）。	一番楽しみたいコマのところに付箋機能などを使って、理由を書き込む。	紙のノートに書き込んでよい。
デジタル教科書画面をもとにして考えを交流する	遊びたいコマとその理由について、ペアや3人組で、交流する。 友達のコマを選んだ理由について、同じところや違ってるところについて、質問し合う。 授業で気づいたことをノートに書く。 マイ黒板で整理してわかったことや、友達のマイ黒板を見てわかったことを簡単に書く。友達から学んだことは印をつけて、自分の気づきとは分けて書いておく。	

事例1 <第2学年上> 「たんぽぽのちえ」

- ①ワークシートで説明の順にカードを並び替える。  
付属教材のワークにある、説明の順を確認するワークで、個別に教材文の説明する順序を確認する。紙の教科書を使って確認してもよい。
- ②本文で読みとったことを、挿絵に書き込んで確認する。  
本文の内容を挿絵で確認する。低学年でも修正が簡単なので、自在に書き込むことを習慣づけるとよい。



(光村図書出版2年上 p.41-51 デジタルコンテンツ)

事例2 <第3学年下> 「すがたをかえる大豆」

- 本文をマーカーで色分けして、段落ごとに説明している内容を確認する。  
それぞれの段落で説明している食品名、作り方の工夫、具体的な作り方、を事例の順で見つけて、色分けして筆者の説明の工夫に気づく。
- 板書では説明の構成をわかりやすく整理しておく。

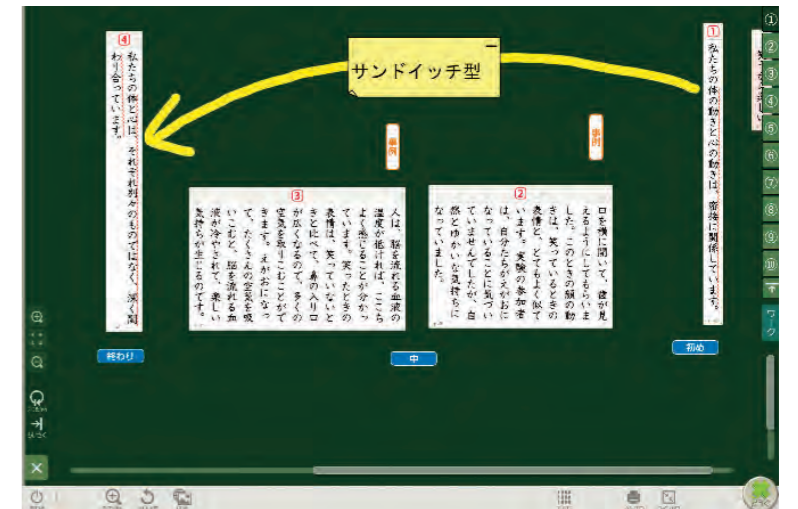


(同3年下 p.44-46)



事例3 <第6学年> 「笑うから楽しい」

- マイ黒板で本文を抜き出して要約を行う。  
中心となる文章を抜き出してマイ黒板上で整理することにより、本文の要約を視覚的に説明できるようになる。個別に整理したマイ黒板をペアなどで確認し合うとよい。



事例4 筆順アニメーション, 漢字フラッシュカード

- 自分でフラッシュカードを再生しながら漢字の読みの学習を行う。
- ペアになって、筆順アニメーションの漢字を選び、筆順を当てる問題を出し合う。



(同6年 p.45-57 デジタルコンテンツ)

## 6年 やまなし 光村図書出版

### 本時のねらい

「五月」と「十二月」の対比や生き物たちのかかわりから物語の主題を考える。  
以下の3つの課題を通して、主題を考える。各自で一旦考えたうえで、グループでの交流活動を行い、考えを深める。  
最終的にはグループごとに成果をポスター発表で表現する。

- ①登場人物の変容について
- ②二枚の幻灯（二つの場面）にした意味は何か
- ③表現からわかること（比喻、色・様子、擬音語・擬態語）

### デジタル教科書（+教材）活用の意図

「やまなし」はこれまで学習してきた物語文とは、文体や展開も大きく異なっており、初めに感想を聞いても、「意味不明。わからない言葉が気になる。」「かにの兄弟の気持ちの変化が描かれている。」「谷川の川底から見る世界の美しさが描かれている。」「かに視点の面白さがある。」「比喻や擬音語、擬態語などが多く使われている。」など、断片的な感想が多く出る。本事例では、より学習者主体の授業とするために、まずは、それぞれが自分の考えを形成し、それをもとにグループで合意形成を行うという学習の展開にし、そこでデジタル教科書を活用した。「マイ黒板」の活用では、自分が気になる言葉や文をマイ黒板上で抜き取る。抜き取るためには、本文を何度も何度も読みながら試行錯誤することにつながる。そこに、自分の考えを書き込むこともできる。さらに、自分が抜き出した言葉や文をもとに他者と対話する中で、他者の考えに触れることができる。一方通行の「発表」から、双方向の「交流」を実現させるために、本文の中からみんなで探究すべき「価値ある問い」を見つけることを意識させた。

### 国語科におけるエクストラのデジタル教科書（+教材）活用のポイントは、ここだ！

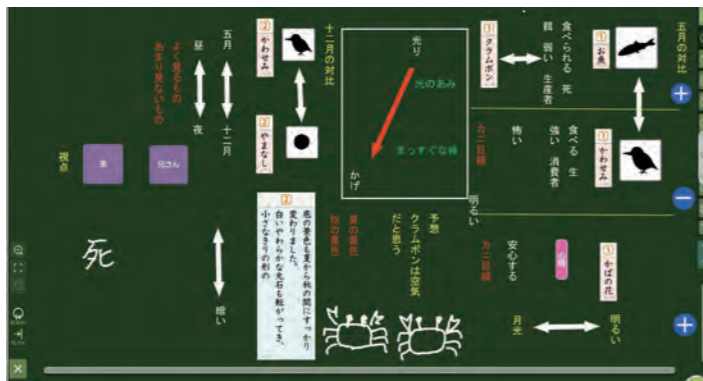
個別の考えをもとに、グループでの話し合いによる問題解決を軸にした授業を行った。

グループ①：登場人物の変容


グループ②：対比からわかること

グループ③：表現（色・様子、比喻、オノマトペなど）

マイ黒板だけで整理分析するのではなく、教科書への書き込みやノートなど、使うツールは自由にして、グループでの話し合いに臨ませた。自分の考えを作る段階と、共有しながら考えを加筆修正する段階で、デジタル教科書のメリットが見られた。マイ黒板上のカードや書き込みを自在に配置して、わかりやすい構造分析を行ったグループもあった。



### ●学習活動（学習形態、学習活動内容）

学習活動 (学習形態・学習活動内容)	デジタル教科書+教材活用部分	留意点
「やまなし」を読んで、初発の感想を持つ。	気になる表現や、面白いと思ったところにマーキングをする。	スクロール機能を使って、場面を行き来しながら読ませる。
五月と十二月の場面を比べる	マイ黒板にある、ワークを使って、カニの会話や、水や光の情景などを抜き出して比べる。	「ワーク」を使わずに、マイ黒板を使って自由に整理させてもよい。
①登場人物の変容、②対比からわかること、③表現（色・様子、比喻、オノマトペなど）の3つのグループで主題を考える。	個別に、教科書への書き込みやマイ黒板を使って、それぞれの方法で考える。 	本文を抜き出していく際に、一旦多く抜き出しておいて、整理しながら修正していく方法もあることに気づかせる。
作成した画面を見ながら、お互いの考えを共有し、グループの課題に取り組む。	画面を見せ合いながら考えを交流する。その場で自分の画面を修正しながら話し合う。 	自分の考えを深めるための話し合いであることを伝え、お互いに友達の考えを聞き合うことを意識させる。
グループで整理したマイ黒板などを用いて、ポスターセッション方式で発表する。	ポスターセッション方式で、グループごとに発表し質疑に答える。 	グループで一つの考えを作るために、デジタル教科書の画面を使いながら、発表に使う資料を作成するように促す。

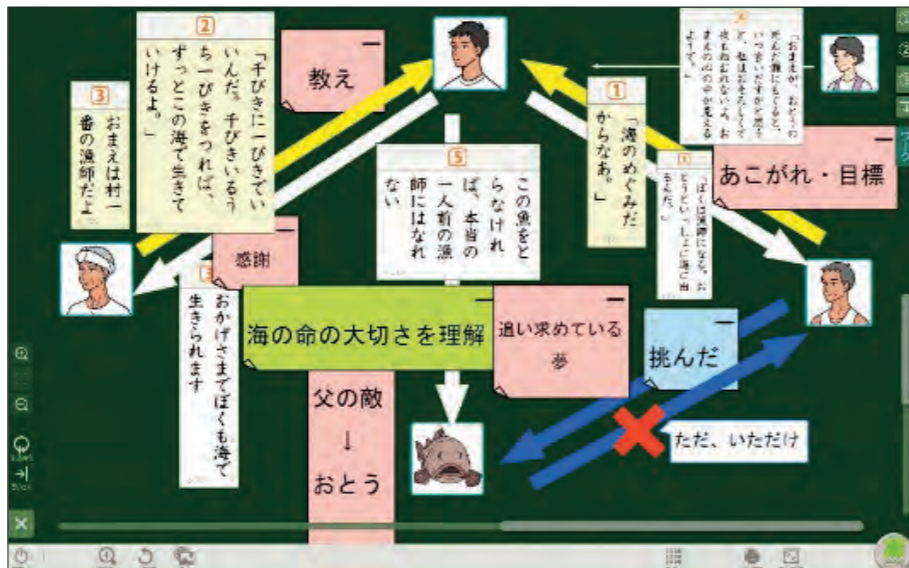
事例1 <第6学年> 『鳥獣戯画』を読む

毎時間の学習活動を、マイ黒板に整理していく。中心となる文や挿絵、段落の構造を示すスタンプ、感想や疑問などを記載した3時間分ほどのマイ黒板。ノートテイキングの代わりとして活用している。何人かのマイ黒板をまとめて、欠席者に送っておくと、授業の様子がよく伝わる。



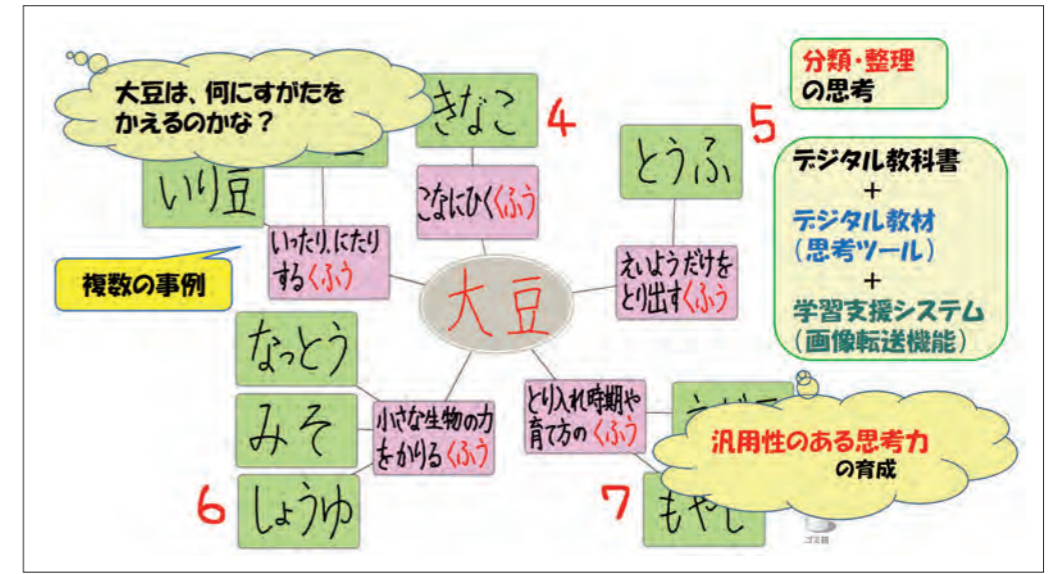
事例2 <第6学年> 『海の命』

マイ黒板を使って人物相関図を作らせた。スタンプと線や付箋などの書き込みツールで構成させるとよい。物語の全体から中心となる文を選び配置した上に、自分の考えを重ねていく。個別に作らせたものを、ペアやグループで交流させる。その際に、お互いの考えを引き出しながら、話し合うことで、お互いの視点や探した根拠の違いに気づくことができる。この交流を、ペアからクラス全体に広げることで、より思考を広げたり深めたりすることができる。全体交流には、議論ができそうなマイ黒板を、教師が学習支援システムで見つけておいて指名してもよい。



事例3 <第3学年> 「すがたをかえる大豆」

本文を、思考ツールを使って整理する。思考ツールで整理すると、構想メモを作ることと同じ形になることから、書くことの学習につなげることができる。



事例4 <第5学年> 「提案しよう、言葉とわたしたち」

スピーチの映像資料(解説なし)を、個別に視聴しながら、スピーチの構成や表現の工夫について、気づいたことをノートにメモをする。メモをする際に、映像の再生を一旦止めて、その時間をメモに添えておく。それぞれが見つけた工夫について、グループで確認し合う。その際に、メモをもとに、映像を再生しながら交流するとよい。実際の映像から見つけた工夫を、自分の発表の際に意識させるため、発表メモに記入しておく。

